

#子育て処方せん

男子の下腹部痛 注意

子どもの病気や体の異常などについて、福岡市立こども病院の医師が解説する「#子育て処方せん」。今回は、泌尿器科長の此元竜雄医師に、小児期に注意すべき病気とその治療法などを聞いた。

小児泌尿器科の病気

泌尿器科で扱う子どもの病気は大きく分けて、▽腎臓やぼうこうなど、尿をつくり、排出する臓器に関係するもの(尿路系)▽男子の子の生殖器に関わるもの(生殖器系)——がある。尿路系では、尿がぼうこうから腎臓に逆戻りする「ぼうこう尿管逆流症」、尿の流れが悪くなって腎臓や尿管にたまる「水腎症」などがある。

生殖器系には、男子の腹部でつくられる精巣が1歳頃になっても陰のうの中まで降りてこない「停留精巣」や、尿道の出口が通常的位置にない「尿道下裂」、思春期に精巣の血管がねじれて激痛を生じさせる「急性陰のう症」などがある。

らの多くは手術で尿道や精巣などを正常な状態に近づけることになる。中でも急性陰のう症は、一刻も早く緊急手術をしなければ



此元竜雄医師

いと精巣が壊死するため、注意が必要だ。発症から6〜12時間以内に手術するのが望ましいとされるが、本人が恥ずかしさなどから痛みを我慢し、初動が遅れる例もある。男子の子が下腹部の痛みを訴えた際は、まず陰のうの痛みではないかを

「急性陰のう症」一刻も早く手術

確認してほしい。夜尿症(おねしょ)が続くといった排尿に関する問題にも対応している。水分をとる時間や睡眠の時間を決める生活指導などを行い、それでも解決しなければ、尿量を調整する薬を処方することもある。デリケートな部分の疾患を扱うことが多いため、診察室に出入りする人を減らす、部屋を少し暗くするといった配慮を行っている。検査や治療に当たっては、本人の羞恥心を刺激しないようにする必要が

(聞き手・大森祐輔)

紙の母子健康手帳(母子手帳)と併用する「母子手帳アプリ」を導入する自治体が増えている。出産後に次々と訪れる予防接種の日程管理などができ、親の負担軽減にもつながっている。予防接種は種類が多く、接種回数や時期もそれぞれ異なり、スケジュール調整が難しい。福岡県宇美町が2020年に導入したアプリ「うみよん」は、子どもの生年月日を基に接種時期を自動計算し、接種日が近づくと通知する。アプリを利用し

母子手帳アプリ「うみよん」を活用している家族



母子手帳アプリ 親の負担軽減

ている町内の釣川稔さん(29)は生後3か月の長男がいる。「初めての育児で分からないことが多く、助かる」と話す。導入のきっかけは、東日本大震災の被災地に派遣された町職員の経験だ。現地で「母子手帳が津波で流され、予防接種などの記録が残っていない地域がある」と聞いた。紙媒体以外で記録できないかと考えていたところ、母子手帳アプリを活用する事例を知り、開発会社に製作を依頼した。アプリには子どもの身長や体重などを入力する機能もある。町ごともみらい課の担当者は「今後とも機能を充実させていきたい」としている。こども家庭庁によると、22年度には全国の市区町村の53%が母子手帳アプリを導入していた。

■予防接種日通知 ■身長体重を記録

「#子育て処方せん」へのご意見をお寄せください。社会部のメール(s-syakal@yomiuri.com)へお願いします。



インタビューの動画はQRコードを読み込んでください